

「第1回北信越・東海ブロック クラブ育成推進協議会」開催報告

日時;平成17年9月19日(月・祝)13:00~17:00

会場;三重大学 三翠ホール 小ホール(津市)

第1回北信越・東海ブロッククラブ育成推進協議会には60名が参加した。終了後の情報交換会(懇親会)には29名が参加した。レクチャーではゲストにアルビレックス新潟取締役育成部長の若杉透氏を迎えてジュニア期からユース期までの選手育成の考え方とアルビレックスの夢を聞いた。グループ討論では60名の参加者が5つのテーマに分かれてクラブ育成の課題や解決策を話し合った。グループ討論の内容は各テーマから2名の報告者が選ばれて総括討論において報告された。

【レクチャー】

アルビレックス新潟の選手育成の考え方

株式会社アルビレックス新潟 取締役・育成
部長 若杉 透 氏

私はJリーグ開幕年の1993年、新潟イレブンというチームの監督だった。新潟イレブンはアルビレックス新潟(以下、アルビレックス)の母体チームだ。新潟県のスポーツを変えたいという気持ちが強かった。私は後に、前職を辞してアルビレックス新潟に入社した。1994年4月3日、アルビレックス新潟がスタートした。それから10年をかけてJ1リーグに昇格した。選手は入場料をいただいて観客やファンを喜ばせなければならない。10年がすぎた今、観客やファンを楽しませ喜ばせる質の高いプロ選手の育成が急務であると考えている。



育成プロジェクト2013

アルビレックスでは2013年を目標に選手育成のプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトでは18歳までの選手育成の考え方について各カテゴリー(年代別)別に指導と育成の評価基準をつくっている。コーチたちには日常的に評価基準の確認を徹底することを求める。

新潟県は地方都市だ。地方だからこそできることを考えた。特徴は3つある。一つはJAPANサッカーカレッジ(サッカーの専門学校)の優秀な学生がサテライトチームに参加できるアマチュアチーム委託契約を締結し JAPAN サッカーカレッジ(サッカーの専門学校)を下部組織に位置づけた。二つ目はシンガポールリーグ(株式会社アルビレックス新潟 S)と交流して選手をレンタル派遣していること。三つ目は新潟医療福祉大学のサッカー部と将来アマチュア委託契約を結んでアルビレックスの一育成部門としたいと考えている。この三つの特徴を活かして日本に存在しない独自の選手育成のシステムを作って行きたい。

アルビレックスの目指す選手づくり

アルビレックスの選手には、サッカーのプレイヤーである前に一人の人間としての成長を求めている。アルビレックスの指導を受けると人間として成長できる。これがアルビレックスの選手づ

くりの土台だ。人間性は人に対するやさしさと自分を客観的に評価して自己改善できる能力だ。この土台がない選手には成長は望めない。世界のサッカー界では通用しない。選手たちはこうした人間性という土台の上で「闘う姿勢」や「サッカーという競技特性が理解できる」のだ。たとえば、ジュニアユースの選手たちの指導には「握手の仕方」がある。はじめは恥ずかしがって相手の目を見て握手できない選手たちがほとんどだ。握手のときには相手の目を見て相手の立場を尊重する気持ちをもつことを教える。そういう指導がプレイや日常の振る舞いにあらわれる。

もう一つは、プレイを見てもらってお金をもらえる選手になることを意味を考えさせる指導だ。プレイではマット運動のバック転、バック宙ができる位の運動神経が必要だ。世界のサッカーの得点シーンでは連続でバック宙をしている選手がいる。サッカー選手もトップアスリートの能力が要求される時代になってきている。ドイツのレバークーゼンではちびっ子には難しい運動課題を与えて「勇気をもってチャレンジする」遊び道具をさまざまに工夫している。アルビレックスではいろんなスポーツを経験させていこうと考えている。スキーは人気種目の一つだ。

基礎はしっかりつくる

10歳までの指導では、「コーチは意図的に、選手は感覚的に」が合言葉だ。10歳まではトレーニングの仕方を工夫することが重要だ。フランス代表のジダンのステップをトレーニングメニューに加え場合、その際には事前にステップを教えておいてからジダンのビデオを見せる。ビデオに感動する。それだけで子供たちは何度も何度もジダンのステップを練習する。コーチがあとあと何も言わなくてもよい。そういう感動するようなプレイが感覚的に身体に入ってくる。コーチはそういう感動を覚えるようなトレーニング法を考える工夫する。12歳から18歳では骨格の発達が早い。この発達は骨格がさまざまなプレイに合理的に機能しやすいことをも意味する。この時期に基礎をしっかりとつくるのが大切なのだ。選手個々の発育発達を詳細に観察しトレーニングのフィードバックをすることは重要である。

オンザピッチではゲームを！

アルビレックスでは「オンザピッチ」と「オフザピッチ」の両面から自己をしっかりコントロールできる選手を育てたい。「オンザピッチ」では子供たちがサッカーをしていて楽しいと思うことが大事だ。アルビレックスではゲームを中心にメニューを考える。楽しさの質は子供たちのゲーム後の顔と父母の顔でわかる。トレーニングの充実度は親子の表情にその成果がよく表れるからだ。自己中心的なトレーニングではいけない。

オフザピッチでは生活習慣を！

「オフザピッチ」では身体づくりが大事だ。身体づくりは人間性の土台になる。「食事」「生活習慣」「フェアプレイ」の3つがアルビレックスの指導方針である。食事や生活習慣を自分自身でコントロールできる能力である。これがトレーニングの準備であり、プレイの質を左右することを指導する。フェアプレイは日常生活の中で相手を尊ぶ心をもつこと。選手たちがオフザピッチでも積極的な思考ができるようにコーチとのよい関係を築くこと。オフザピッチはコミュニケーション能力を獲得するところでもある。

名将アーセン・ヴェンゲルは、「タレントであるだけでは足りない。意欲とインテリジェンスがなくてはならない」と言った。この問いの答えをアルビレックス新潟から発信したい。 (了)

【グループ討論の内容メモ】

テーマ 1 「受益者負担の理解と安定した活動資金の確保」

受益者負担は地域では聞きなれない言葉だ。都市と地方で負担の考え方に差がある。会費の対価となる参加事業を質の高いものにする。他のクラブや他の地域とタイアップ事業を構想する。



テーマ 2 「地域の関係団体との連携」

関係団体間においてクラブの設立理念と目的の意思統一が大切だ。クラブのパンフレットがたくさんでいる。理念と目的を広報できるパンフレットの工夫が連携の糸口になる。

テーマ 3 「準備委員、運営委員のモチベーション(やる気の醸成)」

市町村のスポーツ振興の歴史によって違いがある。委員が楽しみながらクラブにかかわることが大事だ。イベントに参加してもらって楽しみを覚えてもらう工夫が必要だ。

テーマ 4 「地域住民への啓発と理解」

総合型地域スポーツクラブは地域住民には理解しにくい。会員獲得の前に社会的な認知度を高める啓発活動を考えることだ。10年ぐらい先の成果を考えて理解を求める覚悟が必要だ。

テーマ 5 「活動場所の確保と指導者の確保」

活動場所の確保では総合型地域スポーツクラブを優遇するという考えではよくない。地方体育協会が教室を開くことが場所や指導者の確保には都合がよい。教室参加者がクラブを結成するケースがスムーズだ。

(報告;水上博司 北信越・東海ブロック地方企画班長)